

平成 23 年度第 2 回水産研究所研究評価委員会（事後）評価結果

1. 日 時：平成 24 年 3 月 1 6 日（金） 10:00～13:00

2. 評価対象研究課題と評価結果

評価項目	目標の達成度				技術の発展性			技術移転・普及性の具体性			今後の研究方向		
	A	B	C	D	1	2	3	1	2	3	1	2	3
新しい真珠養殖技術実証化事業		3	1		2	2		1	1	2	2	2	
標識アワビ種苗を用いた放流効果評価手法開発事業		4			3	1		1		3	2	2	
魚類養殖試験	3	1			3	1		1	3			4	

注)表中の数字は研究評価委員4名の評価結果(人数)

【目標の達成度】													
A: 目標以上達成													
B: ほぼ目標通り													
C: 一部不十分													
D: 不十分													
【技術の発展性】													
1: 課題全体としての発展性あり													
2: 一部の中小課題について発展性あり													
3: 発展性は少ない													
【技術移転・普及性の具体性】													
1: 技術移転の可能性あり													
2: 製品化・普及への具体性あり													
3: 技術情報として有効													
【今後の研究方向】													
1: 新規課題として未完成技術の開発を図る													
2: 未達成課題については継続して完成させる													
3: 課題を終了する													

3. 評価結果のまとめ

1) 目標の達成度

一部の研究課題に関しては、「一部不十分」との評価でしたが、概ね「目標以上達成」、「ほぼ目標通り」の評価を頂きました。特に、「魚類養殖試験」は過半数の委員から「目標以上達成」との高い評価過半数をいただきました。

2) 技術の発展性

すべての課題で、半数以上の委員から「課題全体として発展性あり」の評価を頂きました。

3) 技術移転・普及性の具体性

「魚類養殖試験」については、「技術移転の可能性あり」、もしくは「製品化・普及への具体性あり」の評価を頂き、今後は成果の普及を目標として取り組んでいくこととします。他の2課題については「技術情報として有効」との評価であり、生産現場での展開を目指して、関連する課題、あるいは今後の計画の中で、技術の向上に努めることとしま

す。

4) 今後の研究方向

すべての研究課題で未完成技術の開発、未達成課題の完成を図るとの評価を頂き、評価過程で頂いた委員の意見を参考として、効果的に研究活動を行い、技術の完成に努めます。